

Title	インターネットにおける流通構造 - 中抜きはなぜ起こらないか? -
Sub Title	
Author	小川亮(Ogawa, Makoto) 嶋口, 充輝(Shimaguchi, Mitsuaki)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1583号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1583

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	嶋口研究会	学籍番号	89928244	氏名	小川 亮
(論文題名) インターネットにおける流通構造 —中抜きはなぜ起らないか?—					
(内容の要旨) <p>本論文では、インターネットにおける流通構造の特徴を明らかにする。中でも「中抜き」と呼ばれる「売り手による直販」の可能性を検証する。</p> <p>この課題を検証することは、次の3点において重要である。まず、流通戦略の立案には中間流通の存在が非常に大きい役割を担っていること、多くの企業がインターネットにおける流通戦略を模索していること、雑誌や新聞などで多くの中抜き論が見られるが、論理的な検証が行なわれていないことの3点である。</p> <p>検証に当っては、「インターネットでは中抜きは起らない」という仮説に対し、流通の本質的な役割を示した「取引数効率化の原理」がインターネット上でも成り立つかどうか、という視点に立ち、理論検証を行なっている。</p> <p>まず、インターネットが取引費用に与える影響を把握するために、ウィリアムソンの取引費用の発生要因に対して、インターネットにおける情報流通量の増加がどのような影響を与えているかを整理している。その結果として得られた「取引費用は削減されるがゼロにはならない」という主張に立って、取引数そのものの増減を、事例と様々な研究をふまえ、取引数そのものは増加傾向にあることを検証した。取引費用がゼロにならず、取引数が増加傾向にあることから、インターネットの流通構造における中間流通の重要性が高いことが確認できた。</p> <p>一方、その中間機能の担い手が誰になるべきかという点について触れ、売り手ではなく、第3者が中間機能を担うべきである根拠を3点あげた。ただし、直販が成功しているケースもあるため、「デルコンピュータがなぜ成功したのか?」について考察し、直販が成功する8のパターンを提示した上で、いずれも稀なケースであることを明らかにしている。</p> <p>そして、最後に中間流通の存在を前提にしたインターネット流通の特徴として、情報流と物理的な物の流れの分離が引き起す中間流通のデコンストラクションを指摘し、売り手のインターネット流通戦略における留意点として、『積極的な中間流通の活用とチョイスからコーディネート発想への転換。』を提示している。</p>					